

令和5年8月27日 楽習会

参加されたみなさまからの感想（一部抜粋）

・小説を映画化するにあたり、導入される音楽、映像が、新しい物語かのようになるのは面白いと思った。映画を見に行こう。

・今まで考えたこともないような“切り口”がとても新鮮でした。文芸作品を映画化したものが好んで、たびたび観ますが、本日の講義のような鑑賞の仕方をする、より味わい深いですね。ありがとうございました。「Smoke」の音楽の使い方が一番好き。心にしみました。

・“Adaptation”（翻案）の定義と、音楽が映画の中でどのような効果を生んでいるか、その深い意味が少し理解できたような気がしました。“The Great Gatsby”も女性の視点で読んだり見たりすると、男性読者とは違う解釈になるんですね。

・小説≒映画と思っていましたが、映画には原作に含まれない工夫がされていることを知り、最近ストーリー重視で1.2～1.5倍速で家で見ている映画をじっくり見たくなりました。

・映画は好きでよく見るのですが、字幕のない歌の歌詞まで深掘りすることはなく、今回ご紹介いただいた3作品、とても新鮮な気持ちで聞かせていただきました。再び映画を見たい、新しく見たい気分になりました。

・3種の映像をご紹介いただきましたが非常にそれぞれ翻案のすばらしさを感じました。林先生、スタッフの皆様に深く感謝致します。今日はありがとうございました。

・洋画・洋楽共に興味があったので、受講しました。「翻案」という言葉も初めて知ることができ、いつもは何となく見ていた映画も、音楽に意識を持って見てみたいと思いました。

・初めて参加しました。映画はあまり見ないし、英語もあまり……ですが、先生のお話を聞いて、楽しみ方を教えてもらったとうれしく思います。深追いしてみるとまた感動が生まれますね。先生の声がやさしくて聞きやすかったです。